

★VOL 5 令和2年10月6日発行



絵本の楽しさをあそび分け

■「これなんなん？」

くりはらたかし／作

とぼけた味わいと話の展開を楽しむ作品。

●タヌキたちが住んでいるポッカリ島には人間が使うモノがときどき流れ着きます。タヌキたちはいくら考えても使い道が分かりません。●そこで物知りな長老の出番ですが、長老だって見たことがないのでさっぱり分かりません。でも、若い頃に人間の世界へ行ったことがあると公言している長老は必死になって使い道を考えます。●あれこれ考えるさまと長老が思いついた使い道がおもしろさの肝です。●途中からビックリする展開になり、最後に、くすっと笑える仕掛けが用意されています。●3歳後半から。



は、鬼のおなかの上にあります。子どもたちは、鬼がいびきをかいて寝ている間に遊び、目覚めると大急ぎで隠れます。巨大でどこか悲しげな顔の鬼、不思議な感覚の絵ですが、この絵本を読んでもらう子どもたちは、単純に絵とお話の両方をおもしろいと感じるのでは…。●昔から伝わる子どもたちの遊びの豊かさもしっかり描いています。●3歳後半から。

■「3人のママと3つのおべんとう」

クク・チスン／作

同じマンションに暮らす3組の母と子が、それぞれに「春の訪れ」を感じる幸福感を描いている作品。●会社で責任ある地位で働くママ、赤ちゃんと子ども3人を育てるママ、自宅で絵を描く仕事のママ…3人のママに共通するのは、同じ幼稚園に我が子を通わせ、きょうは遠足のお弁当を持たせること。●仕事や家族の違いはあっても、子育てをしながら〈言葉にできないせわしさ〉を3人のママはふと感じていますが、遠足から帰ってきた子どもたちからステキなプレゼントを受け取ります。●子どもと一緒に読むと、お母さんの気持ちがほぐれてくるかもしれません。4歳くらいから。



■「こうえん」

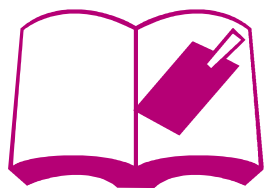
くりはらたかし／作

絵本に描かれてある世界をそっくり受け入れると楽しさが増します。●たくさんの子どもたちが遊んでいる〈おにがはら公園〉



●上條/さなえ/文
「わすれたっていいんだよ」

●ヴェロニク・ヴァン・テン・アベール/
作「わたしのおばあちゃん」



本との出会いを ボーイズ＆ガールズに

■「きみひろくん」 いとうみく/作

ウソから始まるホントの友だち…本の帯のメッセージです。●小学2年生のぼくの友だちにきみひろくんがいます。きみひろくんは、お母さんと2人でアパートで暮らし。保育園の頃から優等生で勉強も運動も抜群！誰かの悪口も言わず、親切で、みんなから好かれています。●でも、ちょっと困ったことに、きみひろくんは、ぼくにだけ、すぐウソだと分かるウソをつきます。●ある日、きみひろくんはとんでもないことをぼくに言います。〈ぼくのお母さんは、本当のおかあさんじゃない〉〈今夜、アメリカにいるお父さんに会いに行く〉。●物語の最後まで読むと、子どもは皮膚感覚で、きみひろくんの心のうちの〈頑張りすぎ〉を感じ、きみひろくんに寄り添うぼくの気持ちにも同感すると思います。●今を描いた作品。小学校低学年から。



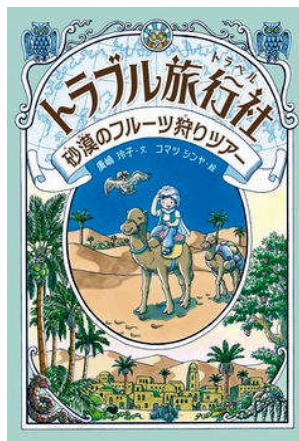
■「トラブル旅行社（トラベル） 砂漠のフルーツ狩りツアー」

廣嶋玲子/作 コマツシンヤ/絵

読み終えて気持ちがスッキリする冒険ファンタジー。●大悟は小学校4年生の男の子。ある日、大悟は、勝手に飲んではいけない冷蔵庫のジュースを飲んでしまい、そのジュースを手に入れるために、別世界の砂漠を旅するキャラバンの一員として冒険の旅に出ます。●キャラバンは、

子どもでも〈働かざる者食うべからず〉が原則。大悟は得意の料理と知恵を働かせてみんなの役に立ち、自信を持ちます。

●ジュースの材料を手に入れる旅をしながら、作中物語となっている砂漠の国の跡継ぎをめぐる争いに巻き込まれますが、大悟はとても重要な役割を果たします。●舞台の設定、旅で起きるさまざまなこと、大悟と関わる人たちのキャラクターがとても魅力的。シリーズ化されると思いますが、小学校中高学年にはぜひのオススメ！



■「おねがい流れ星」

如月かずさ/作
はたこうしろう/絵

ただただおもしろい！作品。「なのだのノダちゃん」シリーズ4作目。●小学校3年生のサキちゃんが学校帰りに出会った女の子は、

黒い服に真っ黒いぼうしとマント、十字架が嫌いでトマトジュースが好き！●そして、本当の名前はとっても長く、言葉の最後に「…のだ」ばかり言うので、サキちゃんは、その子をノダちゃんと呼ぶことに…。●130ページほどに3つのお話が収められ、けっこうなボリュームの文字数ですが、はたこうしろうさんの絵が文にぴったり合い、長さを感じさせない役割を果たしてい



ます。●ノダちゃんのぶっ飛んだ個性と行動力で、2人は宇宙を舞台にいろいろな冒険の旅へ。ジェットコースターのように次々と場面が変わり、楽しい物語が進んでいきます。物語を読むのが苦手な子も夢中になれるかも…。小学校低中学年に。

■「保健室経由、かねやま本館」

松素めぐり／作

中学生の悩みをタイプ別の温泉で〈見える化〉し、自らの気づきを促す物語。●サーマは中学1年生の女の子。新潟県から東京に引っ越してきました。小学校時代はみんなの人気者でしたが、新たになかよしグループに入った友だちから〈サーマはしんどい〉と言われ仲間外れに…。●自分のどこが悪くて仲間外れにされたのか分からないサーマは保健室に足が向きますが、ふと訪れたのは「第二保健室」。全国の中学校とつながっている温泉「かねやま本科」への入り口で、心に傷を持つ中学生の湯治場です。●サーマは、自分を見つめ直すために毎回違う効能の温泉に入る日々を送ります。●かねやま本館で知り合い、友だちになったアリとの会話やサーマが向き合わなければならない課題と温泉の効能が中学生に分かりやすく描いているので、身近な物語として読むことができます。●2作目もあり。



■「スイマー」 高田/由紀子 /作

ライバルとチームの仲間がいることで成長する…これぞスポーツ物語という作品。●小学校6年生の航（こう）は、東京から新潟県の佐渡に家族で引っ越します。●航は、強豪のスイミングクラブでメドレーリレーのアンカーを務めるほどの力がありましたが、航のミスから仲間と溝ができ、今は水泳から遠ざかっています。●

360ページの分厚い物語には、ライバルであり、信頼できる海人（かいと）との出会いから始まる水泳の再出発やいろいろな事情を抱えている仲間たちの思い、町にたった一つのプールとスイミングクラブの存続問題など、物語に厚みを増すたくさんの要素がつまっています。●表紙の絵が作品のテーマそのものを表しています。●小学校高学年から中学生に。



■「白狐魔記 天保の虹」

斉藤洋／作

女優の芦田愛菜さんは、著書「まなの本棚」の中で、歴史の授業がまだない小学校2～3年生の頃に読み、〈「歴史っておもしろい!」と思わせてくれた小説の一つです。不老不死になった



きつねが源頼朝や織田信長など歴史上の有名な人に会って、歴史的な瞬間を見つめていくお話〉と紹介し、〈学校で歴史を勉強するようになった後、改めて読み返してみたら、自分が知っている歴史上の人物や事件が次々登場して、もっともっと楽しめました〉と感想を綴っています。●主人公のきつね／白狐魔丸は、歴史上の事件に関わるさまざまな人物と関わり、独自の視点で〈時代に生きた人間〉を観察。今回は、ねずみ小僧次郎吉と大塩平八郎を取り上げ、白狐魔丸の厳しい観察眼が読み手を引きつけます。歴史物語であるとともに、白狐魔丸の成長物語、人間探求の物語にもなっています。●また、2作目の「蒙古の波」から登場する吉野のきつね／雅姫（つねひめ）とのやりとりが、巻を重ねるごとに大きな位置を占めています。歴史大河物語で、1996年からスタートし、ようやく7作目。